

# 隨泉寺寺報

平成 24 年 (2012 年) 1 月号 第 497 号

TEL 082-892-0217 <http://www.zuisenji.com>

浄土真宗本願寺派 高峯山隨泉寺

御正忌報恩講

講師 住職 自修

講題 『宗祖 750 回大遠忌について』

■報恩講法要 ～親鸞様のご恩を偲ぶ法要～

浄土真宗の宗祖(開祖)親鸞聖人は弘長2年11月28日(1263年1月16日)御年90歳で御往生なさいました。今年が750回の御正忌報恩講になります。50年ごとにお勤めされる宗祖の大遠忌を節目として、宗祖の教えや先達の願いに立ち返り、いま一度自らの生き方、生活の有様を見つめなおし、あらためて本願念仏の教えを受けとめるあゆみをすすめるものです。

大無寿経に「汝(なんじ)、起(た)ちて更に衣服(えぶく)を整え 合掌恭敬(くぎょう)して、無寿仏を礼(らい)したてまつるべし」と、真実の教えをもって示されておりました。 私たちに、人と生まれた悲しみをとおし、共に生きるものが人間であり、代理のきかない我が身・人生、とおしえてくださいました。今こそ、一人ひとりが親鸞聖人に真向かい、「出遇い」や「つながり」を受け取り直す必要があります。

## 1月の法座予定

- 1月 1日 …………… 元旦会
- 1月 6日 …………… 本部役員会
- 1月 8日 …………… 掃除 長者原西
- 1月 14日 昼席午後1時より …… 御正忌報恩講法要 引き続き財務部会
- 1月 14日 夜席午後7時より …… 大逮夜(おたんや) 御伝抄拝読
- 1月 15日 朝席午前10時より …… 御正忌報恩講法要 おとき
- 1月 15日 昼席午後1時より …… 御正忌報恩講法要 引き続き新年御礼会
- 1月 21日 午後1時より …… 佛婦役員会
- 2月 2日 午後6時より …… 本部役員会

## ☆ 12月3日(土) 仏前結婚式

12月3日(土) 午前11時より隨泉寺本堂で長女鎌田弥名と藤智也さんの仏前結婚式が執り行われました。朝のうちはまだ少し雨が残っていたのですが、ラムーの前から行列を組んで進む頃には、すっかり止んで、たくさんの方が見に来てくださいました。



司婚の頭証寺ご住職の近松照俊様の御導師で滞りなく、仏前結婚式は執行されました。

阿弥陀如来さまのご尊前で、新郎新婦が出遇った因縁の尊さを味わい、お互いの理解と尊敬と責任のもとに生きることを仏祖に奉告し、慈悲の光に包まれて敬愛和合の新しい家庭生活を送ることを誓い合う大切な門出の儀式です。



## ☆ 12月25日(日) 隨泉寺嗣法入寺・結婚披露宴



12月25日(日) 午前11時から隨泉寺門信徒の嗣法入寺・結婚披露宴が瀬野福祉センターで行われました。120名あまりの方が出席して下さり、楽しい楽しい披露宴でした。

中島みゆき 「糸」

なぜめぐり逢うのかを 私たちは なにも知らない  
いつめぐり逢うのかを 私たちは いつも知らない

どこにいたの 生きてきたの 遠い空の下 ふたつの物語  
縦の糸はあなた 横の糸は私 織りなす布は いつか誰かを  
暖めうるかもしれない

なぜ生きてゆくのかを 迷った日の跡の ささくれ  
夢追いかけて走って ころんだ日の跡の ささくれ  
こんな糸が なんになるの  
心許(もと)なくて ふるえてた嵐の中

縦の糸はあなた 横の糸は私 織りなす布は いつか誰かの  
傷をかばうかもしれない 縦の糸はあなた 横の糸は私

逢うべき糸に 出逢えることを  
人は 仕合わせと呼びます



1月

## 一度きりの尊い道を 今、歩いている

私は、貧乏育ちのせいかな、子どもの頃から、相当へそまがりであったらしく、十二、三歳の元旦の日記に、「みんな（おめでとう）〈おめでとう〉とっているが、何がめでたいのか、山も川も田も、そして自分も、昨日のままではないか、何がめでたいのか」と書いているのです。

それを、父が見つけて「おまえはおもしろいことを考える子だ」といつてくれたのが、いまだに、新年を迎える度に思い出されるのです。私が思い出すというよりは、父が私に「お前のこの問い、大切にしろよ」と、思い出させてくれている気がするのです。

流転をくり返してきた私か、大悲に目覚め、念仏申す身に育てていただき、「迷いの旅」を「浄土の旅」に転じていただくことができ、はじめて、ほんとうにめでたい」といえるわけです。

父は、私に、このことを確認させようとして、新年を迎える度毎に、子どもの頃の問いを、思い出させてくれるのだと思います。

「二度と いただけない ただ一度の自分の一生を 自分で 汚したり 傷つけたり 粗末にするような バカにだけは ならないでおくれ 一度きりの尊い道を 今、歩いている」



## 『水 るむ』 高階紀一

春がきて  
凍っていた顔もとけてきた  
チューリップのように並んだ笑顔  
世界には  
まだまだいっぱい素晴らしいことがある と  
それは 教えてくれているようで



よかったね  
生きていて

まだ風は冷たいけれど  
春の服を着て  
出かけてみよう

蛇口は胸の中にある  
ひねれば きっと  
昨日とは違う水が出る



◇◆◇

昨日と今日はよく似ているけれど同じではありません。明日はいつでも新しいものです。私と子どもたちは再び出逢ったわけですが、蛇口は常に胸の中にあります。

胸の蛇口をひねらなければ、中から何も出てくることはありません。潤うこともないでしょう。しかし、自分に問いかけ胸の蛇口をひねるとき、心の深い泉から水がわき出てきます。

胸の蛇口をひねった者だけに潤いと豊かな恵みがもたらされます。自分を見つめ、自分の心に問いかけ、新しい明日に出かけましょう。

## 『水馬』（みずすまし） 村上志染

方一尺の天地  
水馬（みずすまし）しきりに  
円を描ける  
なんじ いずこより来たり  
いずこへ旅せんとするや？  
へイ！ 忙しおましてナ！



◇◆◇

池の中のわずか三十センチメートル四方（方一尺）の範囲、その範囲が天地の全てのごとく、みずすましがしきりに円を描いて動き回っている。おもわず声を掛けてみた。「おまえは、どこから来て どこへ行くのか？ 何のために生まれ、生き、死んでいくのか？」と、そこでみずすまは、さも毅然として答えるのである。「へイ！ 忙しおましてナ！」・・・と。

この詩は、詩人村上志染の「水馬」という題の作品で、ご門主様が著書『朝には紅顔ありて』の中で引用され、「印象深い詩」と述べられているとおりに、自分自身を言い当てられているようで、おもわず苦笑いします。